

「新しい地域づくりによる地方創生シンポジウム（仮）」の開催について

平成 29 年 1 月 26 日
本 部 事 務 局

- 1 開催趣旨** わが国では、少子化による急速な人口減少に加え、若者を中心とした大都市圏への人口流出により、地方はさらなる弱体化が懸念されている。地域を活性化し、地域創生を確かなものとしていくためには「地域の魅力」が「ひと」を呼び、「ひと」が「地域の魅力」を引き出す、「ひと」と「地域の魅力」の好循環を各地域に生み出すことが重要である。
- 本シンポジウムでは、地方創生の視点について、基調講演をいただいたあと、地域の活性化に貢献されているキーパーソン等によるパネルディスカッションを行い、地方創生の先駆的な取組や地域づくりのノウハウ等を圏域内の住民と共有を図るとともに、効果的な地域の魅力づくりについての見識を深める。

- 2 開催日程** 平成 29 年 3 月 28 日（火）午後 2 時～午後 4 時（予定）
- 3 開催場所** ホテルニューオータニ鳥取
- 4 対象者** 圏域内住民 150 名程度（主に地域振興に関心のある方を想定）
- 5 内 容**

項 目	内 容	時 間
主催者挨拶	(調整中)	5 分
基 調 講 演	テーマ：「創造的な取組で地域を変える」（仮） 講 師：同志社大学経済学部特別客員教授、文化庁文化芸術創造都市振興室長 佐々木 雅幸 氏 (講演内容 (例)) ・創造的な営みによる地域振興の可能性 ・地域の創造のために持つべき視点 等	50 分
パネルディスカッション	① 地域・まちの活性化への取組事例の紹介 ② 取組事例についてのディスカッション ③ 参加者との質疑応答 ・コーディネーター 佐々木 雅幸 氏 ・パネリスト (五十音順) 同志社大学創造経済研究センター特別研究員、 NPO 法人都市文化創造機構事務局長 川井田 祥子 氏 会津電力 (株) 代表取締役社長、(一社) ふくしま会議理事 佐藤 彌右衛門 氏 鳥取大学地域学部地域文化学科教授 野田 邦弘 氏 東北芸術工科大学芸術学部コミュニティデザイン学科長、 studio-L 代表 山崎 亮 氏	60 分

6 講師及びパネリストの紹介

(1) 講師

○ 佐々木 雅幸（同志社大学特別客員教授）

1949 年生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程終了。京都大学博士（経済学）、金沢大学経済学部教授、立命館大学政策科学部教授、大阪市立大学大学院創造都市研究科教授などを経て、2014 年 4 月より同志社大学経済学部特別客員教授に就任し、文化庁文化芸術創造都市振興室長、並びに創造都市ネットワーク日本の顧問も兼任。



2008 年度から 2010 年度まで文化経済学会〈日本〉会長、2010 年に国際学術雑誌 City, Culture & Society (Elsevier から刊行) を発刊し、5 年間編集長を務めた。主著に「創造都市の経済学」「創造都市への挑戦」、編著に「創造農村」「創造都市への展望」「創造都市と社会包摂」など。

(2) パネリスト

○ 川井田 祥子（同志社大学創造経済研究センター特別研究員（PD）、NPO 法人都市文化創造機構理事・事務局長）

大阪市立大学都市研究プラザ特任講師を経て、同志社大学へ。2017 年度から鳥取大学地域学部教授。創造都市論をベースに障害者の芸術表現に関する研究と、ソーシャル・インクルージョンをテーマにした「インクルーシブ・カフェ」を各地で展開。また NPO の活動では、創造都市を目指す自治体や NPO 関係者等のプラットフォーム構築を行う。博士（創造都市）。文化経済学会〈日本〉理事（2012 年度～）。著書は『障害者の芸術表現——共生的なまちづくりにむけて』（水曜社）など。



○ 佐藤 彌右衛門（会津電力（株）代表取締役社長等）

福島県喜多方市にある造り酒屋「大和川酒造店」9 代目当主。東日本大震災の後「原子力に依存しない安全で持続可能な社会作りと会津地域のエネルギー自立」をスローガンに掲げる市民電力会社「会津電力」を設立。



○ 野田 邦弘（鳥取大学地域学部地域文化学科教授、文化経済学会〈日本〉理事、日本文化政策学会理事、鳥取藝住実行委員長、あいちトリエンナーレ実行委員等）

福岡県生まれ。昭和 53 年横浜市に入庁し、市政 100 周年記念コンテンポラリーダンスフェスティバル「ヨコハマアートウェーブ」企画制作、横浜みなとみらいホール開館準備などの文化事業、横浜市立大学法人化へ向けた大学改革、新しい都市政策「クリエイティブシティ・ヨコハマ」の策定、横浜トリエンナーレなど、主に文化政策を担当。



平成 17 年に鳥取大学地域学部教授に就任し、文化政策・創造都市論を教授しながら、鳥取での中心市街地問題の解決にも取り組む。

○ 山崎 亮（studio-L 代表、東北芸術工科大学教授（コミュニティデザイン学科長）、慶応義塾大学特別招聘教授）

1973 年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士（工学）。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005 年に studio-L を設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。「海士町総合振興計画」「studio-L 伊賀事務所」「しまのわ 2014」でグッドデザイン賞、「親子健康手帳」でキッズデザイン賞などを受賞。

